



# 貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の 解消に向けた行政×NPO×企業の 連携・支援ネットワーク構築事業

Presented By



NPO法人チャリティーサンタ  
**Charity Santa**



# 団体紹介



ミッション：子どもたちに、愛された記憶を残すこと  
ビジョン：子どものために大人が手を取り合う社会



「クリスマス」「サンタクロース」という社会認知度が高い行事を取り扱うことで、社会参画の推進を行いながら子どもたちへの思い出支援を行う。

現在はクリスマスだけではなく、年間を通じた体験の支援にも取り組む。

## ■団体略歴

- 2008 活動開始
- 2014 NPO法人化
- 2015 困窮家庭支援開始
- 2016 調査開始・白書
- 2019 岡山市協働開始



※30都道府県42支部で活動（2021/12時点）

※特定の国や宗教とは関係ありません

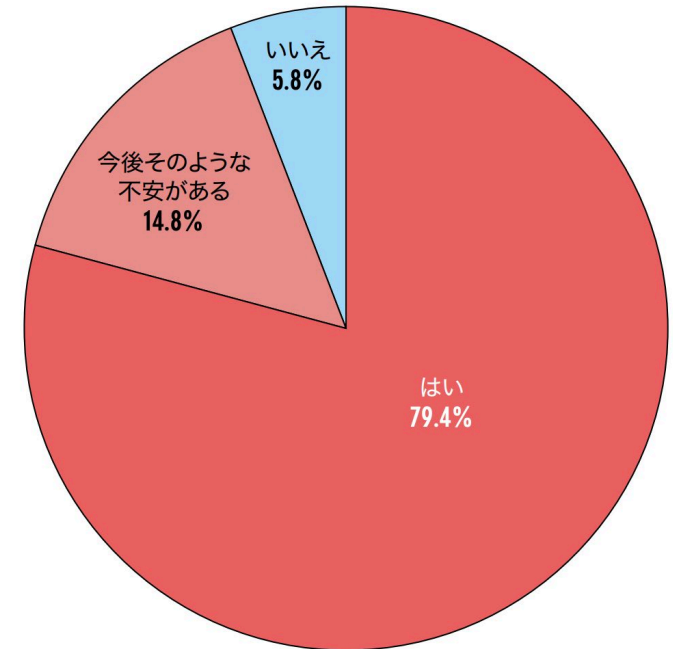


家庭の経済的貧困が子どもたちの未来の選択肢を狭め、貧困が世代を超えて連鎖する現状がある。

その要因の一つとして、困窮家庭の社会的な孤立や、子どもたちの学習や体験の格差があり、そのことによる自己肯定感の低さがあげられている。

令和元年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業において、ひとり親家庭の孤立と、体験活動機会の不足が明らかになった。

子どものしたい（してほしいだろう）ことができなかった経験がありますか？



体験にみる子どもの貧困  
—345世帯の声から見たこと  
令和元年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業

# 「子どものために何もできていない」



「長期休みなど、思い出を作ってあげたいのに、仕事を休んだら生活できないし、かといって貯蓄もないので、どこにも連れて行ってあげることもできず、。。

親らしい事が全然出来ていません。家でも、心に余裕がなくイライラしてばかりで、**本当に申し訳ないです**」

親の罪悪感



子どもの  
劣等感



7人に1人が相対的貧困

岡山市の18歳未満の児童数：112,458人  
（令和3年5月1日時点）

→岡山市内だけでも約15,000人の子どもたちが  
相対的貧困・・・

**「足りていない体験」をどう支える？**



# 企業（地域資源）の掘り起こしを行い、 体験活動の場を増やす。

行政

NPO  
(チャリティーサンタ)

企業  
(地域資源)

解決  
したい  
こと

困窮家庭の孤立解消や  
乳幼児期・学童期の  
子どもの安定と自己肯定  
感の醸成に寄与する  
支援策を求めている。

困窮家庭の思い出不足を  
解消したい

自分たちらしく  
社会貢献をしたい。

でき  
ること

家庭への  
最初のアプローチ

コーディネート  
運営補助  
体制づくり

自社の資源や場の  
活用

# 取組内容 行政・企業・NPOでの体験プログラム作り



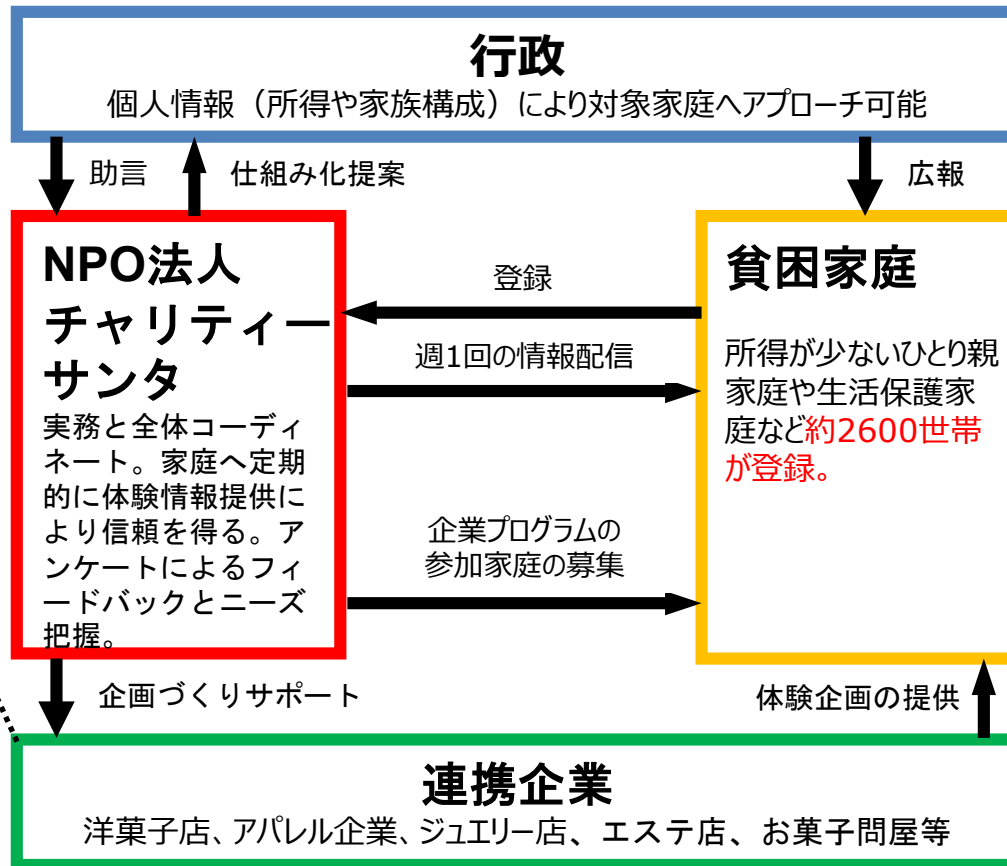
## 洋菓子店の事例

- 01 誕生日ケーキを困窮世帯に届けたいと考える。
- 02 自店舗でプレゼントのケーキ台数を決定、困窮世帯へ広報開始。
- 03 予想以上に希望が多く集まったが、全てに対応することは困難。また遠方への対応は受け取りの関係上、難しい。
- 04 寄付の集め方や、他のケーキ屋にも取組を拡大できるように現在検討中。



## アパレル企業の事例

- 01 「子どもの体験」として店舗内での「子どもの職業体験」を提案。
- 02 親子で楽しめる要素として職業体験中のお母さんのコーディネート企画もあった。しかし、「店舗内で実施の際、一般客の目が気になること」や「買うことができない親の気持ちなどを考え、企画を練り直す。
- 03 アンケートから「古着提供」のニーズなどを把握。  
※「アパレル店員の古着」という付加価値をつけ、対象の親子をエンパワメントすることを意識した形で企画を再度検討。
- 04 実施後アンケートから、プログラムが好評であったことを把握。プログラムの継続・発展（他店舗への拡大）について社内でも検討中。



詳細はこちら（事例集URL）：<https://bit.ly/3nONSTA>



# 取組内容 生み出した「しくみ」。おかやま親子応援メール

- 協働事業を実施する過程で困窮家庭に情報を届ける仕組みができた。（官民連携で運営）
  - 約100の支援団体の情報を提供しながら、困窮世帯の困り感やニーズにそった様々な情報の配信
- ↓
- 体験の掘り起こしや  
企画内容も  
より家庭に寄り添ったものに。

困ったときは、頼って大丈夫！  
困っている家庭に必要な情報をお届けします。

## おかやま 親子応援 メール

ご登録は  
こちら



<https://bit.ly/37Wtzv4>

**誰を対象にした  
メールマガジン???**

岡山市内の日常生活に困難を抱える  
ひとり親家庭や、生活困窮家庭を  
対象としています。

**どんな風に届くの？**

メールや LINE で情報が届きます。  
週に1回程度を目指して  
配信を行っています。

**どんな情報が届くの？**

2020年7月にスタート。2021年  
5月までに120件の情報をお届けしました。

対象の家庭に役立つ支援情報をお届けします。子どもたちの支援をするNPOからの  
情報、子どもの居場所からの支援情報、行政情報など様々です。

**登録者の声はウラ面へ!**

<b>食材・日用品</b> お弁当の配布や フードドライブの 情報	<b>仲間づくり</b> ひとり親のサロンや 子ども食堂情報	<b>体験活動</b> 芸術・文化や 自然・野外体験 などの情報	<b>制度の情報</b> 支援制度の 情報	<b>学習</b> 無料でできる 学習支援の情報	<b>お祝いごと</b> 誕生日や季節行事を 祝うプレゼント情報
--	--------------------------------------	---	-----------------------------	--------------------------------	--

主催：岡山市、岡山市社会福祉協議会、おかやま親子応援プロジェクト



# 取組内容



## カバヤさんに質問しよう お返事コーナー

### 『さくさくぱんだ』ができるまで

みんなの質問（しつもん）に答えらねえ（どりの）をつくらよ！ せひみてみてね。（5分くらいあるよ）  
たくさんのお質問があったので、ぜんぶにこたえられてないかもしれないよ。  
どうしてできなかったことがあえられてなかったら、あうものをつくらええね。  
おひでさんにあまあててねええええ。



様々な企画を生み出し、  
必要な家庭に提供。

# 取組内容（取組成果）

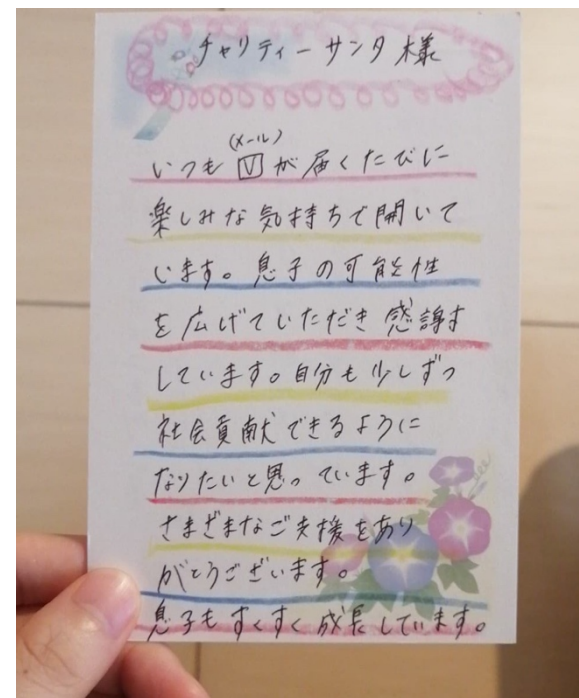


社会のあたたかさに触れながら、体験を通じての前向きな気持ちが届くように。

正直、目先の生活（衣食住）をするのにはいっぱい  
いっぴいでプラスαで楽しむ余裕がなかったので、イベントに参加できてお友達と、こんな休日だったよ！と話  
ができたことが良かったみたいです。

上の子達は、世の中には心のあたたかい人がいることに感謝し、ありがたい、嬉しい、と口にする事がふえました。

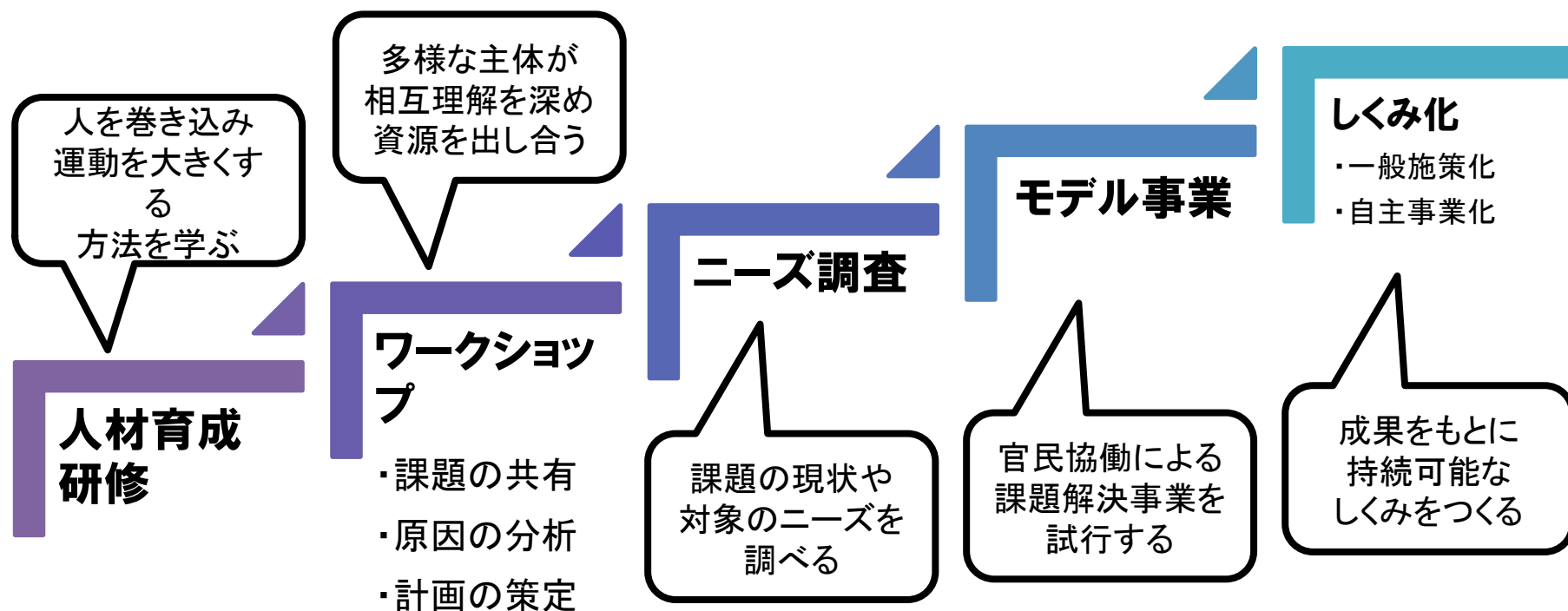
家庭では我慢することが多い子どもたちも、参加させていただくときに、皆さんから話しかけていただけたら、しっかり話を聞いていただけることで、自分の気持ちを受け止めてもらえた喜びを感じているようです。まだまだ、自分に自信はない面はありますが、少しずつ大事にしていてもらいたいです。



<子どもの変化について家庭に尋ねた際のエピソード>



## 岡山市の持つ「課題解決」のスキームを活用

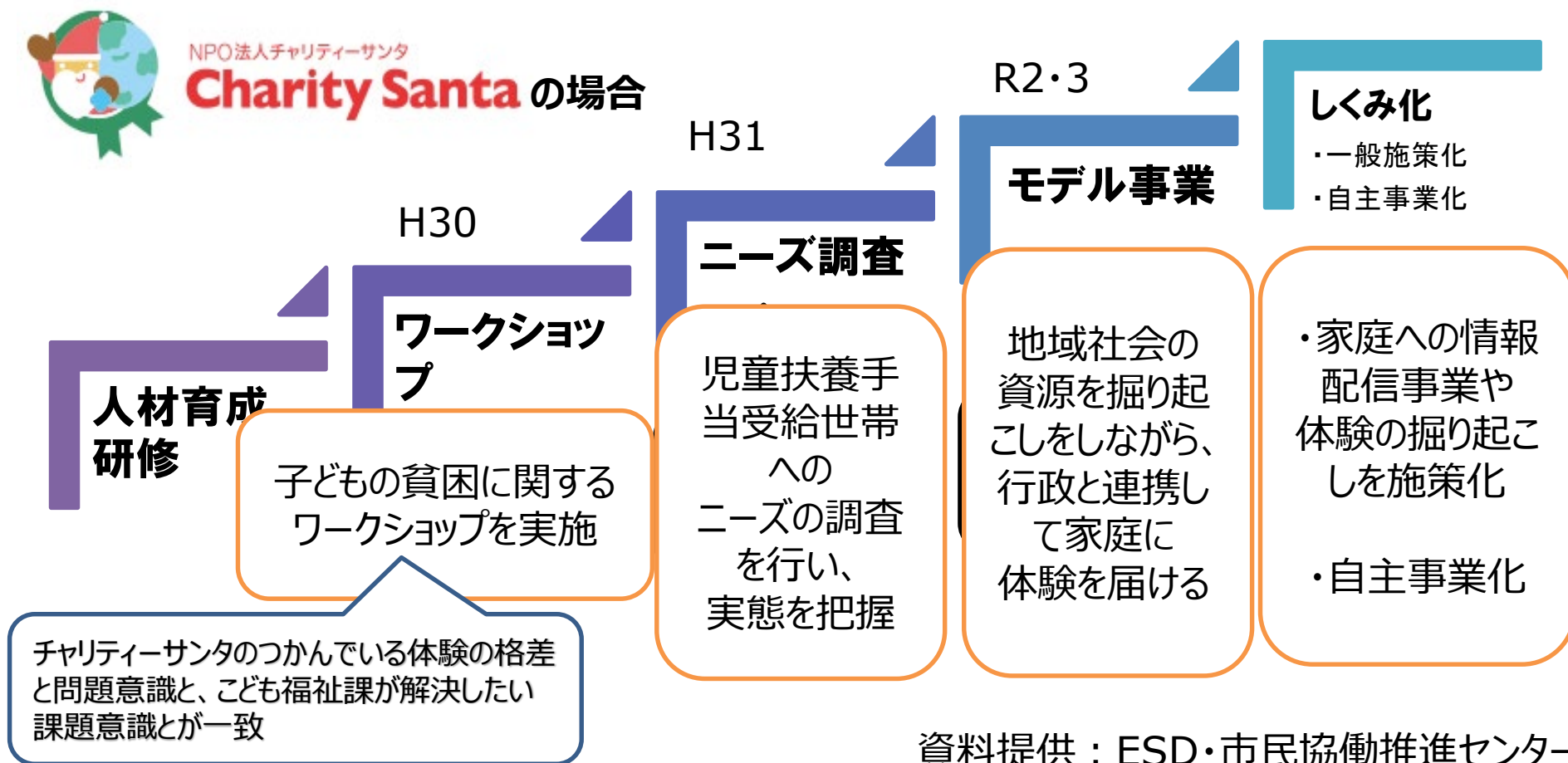


資料提供：ESD・市民協働推進センター

「協働の実践」ではなく、「課題解決」と「しくみ化」を目的とした複数年計画



## 岡山市の持つ「課題解決」のスキームを活用



資料提供：ESD・市民協働推進センター





## 提案前の事前協議が必須

目指す姿（しくみ化）を行政とNPOが十分に協議。

その上で効果的な取組や役割分担を

明確化にして

事業提案（予算上限200万）





- より、困窮家庭にとって必要な体験を模索し、届ける。
- 子どものことを考え、行動できる大人を増やす
- 社会資源の掘り起しでひろがる体験活動を通じて、社会とのつながりを届けたい。

